

アベは労働者を殺すまで働かせるつもり なんや! 労基法の大改悪を許したらアカン!!

戦後最大の改悪 臨時国会に提出

アベ政治が良いことやってるポーズで掲げる「働き方改革」。9月8日、臨時国会提出にむけ、いよいよ最悪の「働かせ方」を可能にする労働基準法(労基法)改悪を柱とする法案の概要が公表された。名付けて「働き方改革関連法案」。新聞は次のように報道。

「法的な強制力がある残業時間の上限規制を初めて設ける一方、専門職で年収の高い人を労働時間の規制から外す『高度プロフェッショナル制度(高プロ)』を導入するのが柱だ。規制の強化と緩和の『抱き合わせ』に民進党など野党が反発を強めており、今月末に始まる予定の臨時国会で最大の与野党対決法案になりそうだ。」

果たして「規制強化と規制緩和の抱き合わせ」なのか? 結論的に言えば、いずれも労働時間規制を取っ払い、8時間労働制を解体し、労働者の状態を19世紀以前に引き戻すものだ。

残業時間規制はウソっぱち

第一に、労基法に問題があって無制限の残業が横行しているのだろうか。労基法は使用者が守るべき労働時間の最低基準を「1日8時間、週40時間」と定めている。なのに、労基法の条文

に残業時間の上限を書き込むことが「規制強化」だと言うペテン。条文に時間を書き込めば、その時間まで残業をさせることを法律が認めている、労働者は拒否できない、となるのだ。

第二に、盛り込まれる「残業規制時間」はそもそも過労死認定ラインを超えている。規制どころか長時間労働・過労死を促進する。さらに運輸や建設労働者はそれさえ適用されない。

第三に「高プロ」。政府が決める年収基準を超える労働者の労働時間規制を無くす一残業代も払わず、奴隷のように好きなだけ労働させることができるという内容だ。今まで連合、野党の反対の中で審議もされなかったが、この間、連合の神津里季生(こうづりきお)会長がアベとの裏取引で容認、組合員の怒りの抗議で撤回という経過があり、政府は足元を見ている。

「年収が高い専門職が対象、私には関係ないわ」なんて思ってたら大間違い。年収の基準額は政府が勝手にいくらでも下げられるし、そうする腹だ。すでに米国はそうになっている。

腹を据えて闘おう 殺されない為に

このように労働時間規制をなくし労働者を奴隷化するのが改悪案の狙い。この認識をぜひ広めて下さい。労働者をこれ以上殺させるわけにはいかない!

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう!